

Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University

龍谷大学世界仏教文化研究センター

2017年度 研究活動報告書



龍谷大学世界仏教文化研究センター編 2018.03

Edited and Published by
Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University

Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University

龍谷大学世界仏教文化研究センター

2017 年度
研究活動報告書

序 文

2017(平成29)年度、龍谷大学世界仏教文化研究センター活動報告書をお届けします。本研究センターでは本年度、全体事業として2件の国際シンポジウムを企画しました。一つは、「仏教をめぐる日本とタイ～修好130年の国と人の交流に未来を探る～」と題したシンポジウムです。9月に予定していましたが、残念ながら台風のため中止となりました。しかし、その後タイのマハーチュラーロンコーン大学で開催された国際会議を代替え事業として位置づけ本学から2名が参加し、また本学でもタイから2名の研究者を招聘し小規模ながらも国際セミナーを開催することができました。もう一つは「チベットの宗教文化と梵文写本研究」です。本来、10月に中国蔵学研究中心から6名の研究者を招聘して国際シンポジウムを開催する予定でしたが、諸般の事情で日程の変更を余儀なくされました。12月になりましたが、延期して開催することができ、チベットの仏教文化とサンスクリット写本の研究をめぐって、国内外の研究者が集い活発な意見交換が行われました。文字通り、「雨降って地固まる」といったところです。本研究センターが着実に仏教研究の国際的プラットフォームとしての歩みをはじめ、研究者間の交流が活性化しつつあることを実感します。

また今年度、2件の学術交流に関する協定を新規に締結することができ、われわれにとって記念すべき一年となりました。2017年6月に中国・旅順博物館の王振芬館長を本学に招き、「大谷探検隊」の収集品の調査研究にかかわって友好協定を結びました。一方、11月には旅順博物館において建館百年を記念して開催された国際学術セミナーに、本学から入澤崇学長を団長として5名が参加し、3名が研究発表を行いました。さらに2018年1月には名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター(阿部泰郎センター長)と包括協定を結びました。今後、新たな研究の飛躍が期待されるところです。

いよいよ今年度で56年の歴史をもつ「仏教文化研究所」は事業活動を終え、その役割を世界仏教文化研究センターは完全に引き継ぎます。今年度、本研究センターの活動にご理解を賜り格別にご協力をいただいた、学内外・国内外の研究者の皆様、そして円滑に研究活動ができるよう支えてくださった事務職員の方々に御礼を申し上げるとともに、今後のさらなるご支援をお願い申し上げます。

2018年3月31日
センター長 能仁 正顕

＜国際シンポジウム＞

2017年9月17日 ✧ 国際シンポジウム ✧ (荒天のため中止。代替シンポジウムを開催)

◇ 「仏教をめぐる日本とタイ～修好130年の国と人の交流に未来を探る～」 52

2018年1月28日 ✧ 代替シンポジウム① ✧

◇ The 17th National Conference and the 1st International Conference “Ethics and Sustainable Development” 53

2018年1月28日 ✧ 代替シンポジウム② ✧

◇ International Special Seminar: Development Monks in Thailand: Past, Today and Future 54

2016年12月2日 ✧ 国際シンポジウム ✧

◇ 「チベットの宗教文化と梵文写本研究」 57

＜公開研究会＞

2017年7月27日 ✧ 龍谷大学世界仏教文化研究センター公開研究会 ✧

◇ 「釈尊の出家動機—仏伝における「四門出遊」の成立—」 62

2017年9月28日、10月5日 ✧ 龍谷大学世界仏教文化研究センター公開研究会 ✧

◇ 「仏教と聖地に関する総合的研究—聖なる表象とは何か—」 65

2018年2月11日 ✧ 龍谷大学世界仏教文化研究センター公開研究会 ✧

◇ 「人類知のポリリズム—華嚴思想の可能性—」 70

2018年2月28日 ✧ 龍谷大学世界仏教文化研究センター公開研究会 ✧

◇ 「聖地研究の切り拓くもの」 80

<REC Community College>

2017年 5月10日～6月7日 ✧ 龍谷大学世界仏教文化研究センター提携講座 ✧

◇ 「聖地をめぐって—聖なる場所とその記憶—」 84

2018年 1月10日～2月14日 ✧ 龍谷大学世界仏教文化研究センター提携講座 ✧

◇ 「宗教と旅—遊行・巡礼・観光—」 89

<その他>

2017年 6月22日 ✧ 龍谷大学世界仏教文化研究センター特別上映会 ✧

◇ ドキュメンタリー映画『ブラジル仏教：TRÊS JOIAS』 94

2018年 3月15日 ✧ 龍谷大学世界仏教文化研究センターE-journal 発行 ✧

◇ *Journal of World Buddhist Cultures* (『世界仏教文化研究』) <第1号>の発刊 98

◇ 龍谷大学世界仏教文化研究センター協定・覚書締結先一覧 103

✧ ワーキングペーパー・活動報告・その他 ✧

< ワーキングペーパー >

「日本における中国石刻経の研究状況」(日本語訳) 107

< 活動報告 >

旅順博物館百周年記念事業 参加報告 137

龍谷大学世界仏教文化研究センター2017年度研究体制 147

ポスター画像集 153

関連記事 163

2017 年度
研究活動 一覽

2017 年度
主要研究活動 概要

ワーキングペーパー・活動報告・その他

龍谷大学世界仏教文化研究センター
2017年度 研究体制

~~~~~

---

---

## 龍谷大学世界仏教文化研究センター 2017年度研究体制

---

---

---

### ❖ センター長 ❖

---

---

能仁正顕 龍谷大学文学部教授

---

---

### ❖ 副センター長 ❖

---

---

鍋島直樹 龍谷大学文学部教授

---

---

### 1) 基礎研究部門 (教義的・歴史的・文化学的・文献学的研究)

---

---

楠淳澄 (部門統括者) 龍谷大学文学部教授

#### 1. 親鸞浄土教総合研究班

杉岡 孝紀 (研究班長、研究代表者)、川添 泰信、高田 文英、玉木 興慈

川添 泰信 (研究代表者)、杉岡 孝紀、高田 文英、玉木 興慈、那須 英勝

深川 宣暢 (研究代表者)、井上 見淳、井上 善幸、岩田 真美、打本 弘祐、葛野 洋明、貴島 信行、  
川添 泰信、杉岡 孝紀、高田 文英、嵩 満也、武田 晋、龍溪 章雄、田畑 正久、玉木 興慈、殿内 恒、  
鍋島 直樹、能美 潤史、早島 理、藤 能成

#### 2. 西域総合研究班

三谷 真澄 (研究班長、研究代表者)、入澤 崇 (研究代表者)、村岡 倫 (研究代表者)、石川 知彦、市川 良文、  
岩田 朋子、木田 知生、岡田 至弘、徐 光輝、曾我 麻佐子、中田 裕子、福山 泰子、村松 加奈子

#### 3. 古典籍・大蔵経総合研究班

道元 徹心 (研究班長、研究代表者)、大谷 由香、野呂 靖、長谷川 岳史

安井 重雄 (研究代表者)、和田 恭幸

若原 雄昭 (研究代表者)、青原 令知、岡本 健資、楠 淳澄、能仁 正顕、長谷川 岳史、藤丸 要、  
三谷 真澄、道元 徹心

---

---

#### 4. 仏教史・真宗史総合研究班

林 行夫（研究代表者）、市川 良文、中川 修、中西 直樹

#### 5. 特定公募研究

岩田 朋子、岩田 真美、岡本 健資、嘉戸 一将、楠 淳澄、龍溪 章雄、中西 直樹、中田 裕子、  
能仁 正顕、野呂 靖、藤原 正信、東森 勲

---

---

### 2) 応用研究部門（社会的諸課題への応答・仏教の現代的意義の追求）

---

---

---

---

#### 人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター(CHSR)

---

---

鍋島 直樹（部門統括者、CHSR センター長、第三領域代表） 龍谷大学文学部教授  
吾勝 常行、井上 見淳、岩田 真美、井上 善幸（CHSR 副センター長）、猪瀬 優里、打本 弘祐、  
川添 泰信、黒川 雅代子（CHSR 副センター長、第一研究領域代表）、貴島 信行、葛野 洋明、  
佐々木 大悟、高田 文英、武田 晋、龍溪 章雄、田畑 正久、玉木 興慈（第二研究領域代表）、殿内 恒、  
中平 了悟、那須 英勝、早島 理、深川 宣暢、藤丸 要、能美 潤史、若原 雄昭（研究班長）

---

---

### 3) 国際研究部門（国際的な発信と研究者交流）

---

---

那須 英勝（部門統括者） 龍谷大学文学部教授  
井上 善幸、入澤 崇、岡本 健資、木田 知生、嵩 満也、能仁 正顕、藤 能成、若原 雄昭

---

---

#### 世界仏教文化研究センター博士研究員、リサーチ・アシスタント

---

---

##### 博士研究員

唐澤 太輔（国際研究部門）、金澤 豊（応用研究部門）

##### リサーチ・アシスタント

亀山 隆彦（国際研究部門）、李 曼寧（基礎研究部門）、大澤 絢子（応用研究部門）

~~~~~

アジア仏教文化研究センター(BARC)

グループ1 (通時的研究班) ユニットA: 日本仏教の形成と展開

楠 淳證 (センター長) 龍谷大学文学部教授

杉岡 孝紀 (ユニットリーダー) 龍谷大学農学部教授

入澤 崇、中川 修、道元 徹心、土屋 和三、藤丸 要、長谷川 岳史、川添 泰信、玉木 興慈、
高田 文英、村岡 倫、渡邊 久、菱輪 顕量、西谷 功、大谷 由香

グループ1 (通時的研究班) ユニットB: 近代日本仏教と国際社会

中西 直樹 (グループリーダー) 龍谷大学文学部教授

三谷 真澄 (ユニットリーダー) 龍谷大学国際学部教授

赤松 徹眞、龍溪 章雄、岩田 真美、能仁 正顕、市川 良文、松居 竜五、林 行夫、吉永 進一、
大澤 広嗣、リチャード・ジャフィ

研究フェロー

浅田 正博、宮治 昭

グループ2 (共時的研究班) ユニットA: 現代日本仏教の社会性・公益性

嵩 満也 (副センター長、グループリーダー) 龍谷大学国際学部教授

若原 雄昭 (ユニットリーダー) 龍谷大学文学部教授

藤 能成、岡本 健資、長上 深雪、野呂 靖、竹本 了悟、マーク・ロウ

グループ2 (共時的研究班) ユニットB: 多文化共生社会における日本仏教の課題と展望

那須英勝 (ユニットリーダー) 龍谷大学文学部教授

高田 信良、小原 克博、ダンカン・ウィリアムズ、本多 彩

研究フェロー

桂 紹隆、佐藤 智水、廣田 デニス

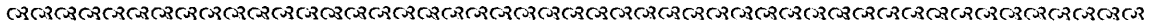
BARC 博士研究員

碧海 寿広、桑原 昭信

リサーチ・アシスタント

熊谷 貴史、村上 明也

ポスタ一 関連記事



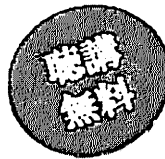
Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University

龍谷大学世界仏教文化研究センター

学術講演会

2017年 一般来聴歓迎 (どなたでも聴講できます)

4月27日(木)

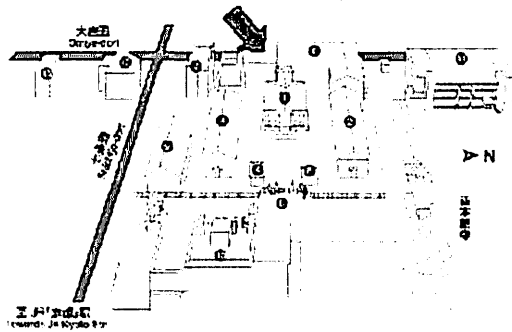


10:45~12:15 (開場10:30)

場所: 龍谷大学大宮学舎 西翼2階大会議室

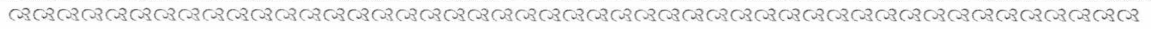
講演者: 宋建曉 (莆田学院副校長)

- 司会: 若原雄昭 (龍谷大学文学部教授)
- 挨拶: 能仁正顕 (龍谷大学世界仏教文化研究センター長)
- 通訳: 李曼寧 (龍谷大学世界仏教文化研究センターRA)



主催: 龍谷大学世界仏教文化研究センター
 共催: 龍谷学会
 協力: 龍谷大学アジア仏教文化研究センター(BARC)

媽祖信仰と文化



three jewels

A groundbreaking documentary film trilogy exploring the spiritual paths of Buddhists in Brazil

2017年6月22日(木)
17:30~20:00 (開場17:00)
龍谷大学 警都ホール校友会館 (アバンティ9F)

龍谷大学世界仏教文化研究センター特別上演会
ドキュメンタリー映画『ブラジル仏教：TRÊS JOIAS』

入場無料・申込不要

プログラム

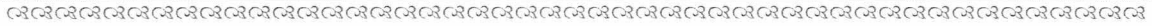
17:30・監督挨拶 菅尾健太郎
17:40~18:40・映画上映『ブダ』(約60分)
18:40~18:50・休憩
18:50~19:15・映画上映『サンガ』+ティーザー映像(約25分)
19:15~19:55・講演+質疑応答 菅尾健太郎
19:55~20:00・謝辞 那須英勝 (龍谷大学世界仏教文化研究センター国際研究部門長)
(総合司会：那須英勝、コーディネーター：唐澤太輔 (世界仏教文化研究センター博士研究員))

龍谷大学 警都ホール 校友会館

●お問い合わせ先：075-343-3812 (龍谷大学世界仏教文化研究センター)
●世界仏教文化研究センターwebサイトで右欄欄公開中 <http://rcwbc.nyukoku.ac.jp/>

主催：龍谷大学世界仏教文化研究センター (国際研究部門) 共催：龍谷大学仏教文化研究所 (仏典翻訳研究会) 協力：龍谷大学アジア仏教文化研究センター (BARC)
製作：EBISUフィルムズ 監督：菅尾健太郎 製作総指揮：ハワロ・バストレロ 制作協力：国際仏教文化協会 (IABC)、仏教伝道協会 (BDK)、真宗大谷派南米本願寺、
書院宗南アメリカ国際布教総監部、ブラジリア本派本願寺、CEBB、VIA ZEN、CENTRO DE DHARMA、INSTITUTO CAMINHO DO MEIO

龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY



龍谷大学世界仏教文化研究センター国際シンポジウム

仏教をめぐる日本とタイ

～ 修好130年の国と人の交流に未来を探る ～

Buddhist Interaction for 130 years between Japan and Thailand:
Toward a Further Development of Human Relations

日時 2017年9月17日(日)
9:00～17:00 (開場 8:30)

場所 龍谷大学
大宮学舎清和館
3階ホール

参加費 無料 要事前申込 [氏名と人数、連絡先を記載のうえ、
メールかファックスにて申込]

一般来聴歓迎 mail : rcwbc-uketsuke@ad.ryukoku.ac.jp
同時通訳 fax : 075-708-5611

お問い合わせ 電話番号 075-343-3812

第一部 講演 (タイ)

- プラ・マハースティ (マハーチュラーロンコーン大学仏教研究所)
「タイ仏教の変遷と国内外の連携活動」
- プラ・チャヤナタームニー (マハーチュラーロンコーン大学ナーン支部)
「北タイ貝葉本にみる僧侶の社会的役割」
- ピニット・ラーパターナノン (チュラーロンコーン大学社会調査研究所)
- セーリー・ウッパタム (スリン県元開発債・NPO主宰)
- プラクルー・ポーティウィラクン (東北タイ開発サングネットワーク)
「東北タイの「開発債」—現在・過去・地域ネットワーク」

第二部 講演 (日本)

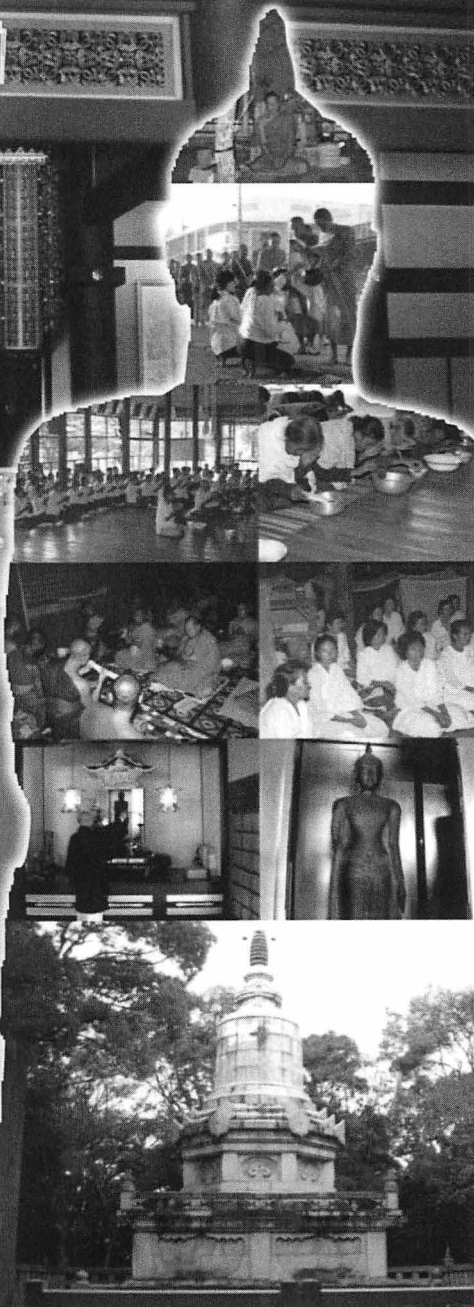
- 鍋島直樹 (龍谷大学)
「臨床宗教師の役割と実践」
- 大澤広嗣 (文化庁)
「1940年代の日タイ関係と日本人仏教者」
- 林 行夫 (龍谷大学)
「日本仏家がみたタイ仏教」
- 神田英昭 (高野山真言宗僧侶)
「タイと日本の仏教は対話できるか?」

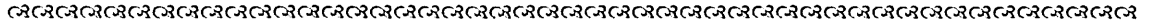
第三部 討論

- ディスカッサント
- 小島敬裕 (津田塾大学)
 - 村上忠良 (大阪大学)
- ファシリテーター
- 林 行夫 (龍谷大学)



主催：龍谷大学 世界仏教文化研究センター
後援：タイ王国大阪総領事館
日本タイクラブ
毎日新聞社京都支局
京都新聞





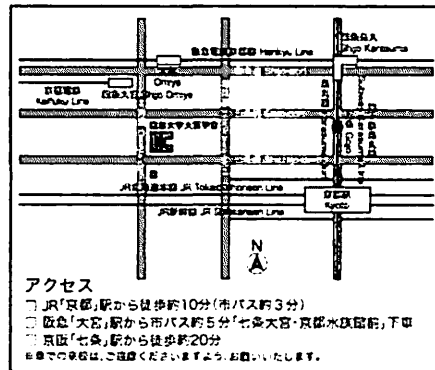
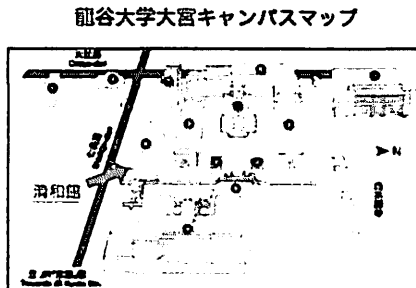
開催趣旨

2017年は、1887年に日本とタイが修好宣言に調印して130年目にあたる。これを記念して、仏教をめぐる日タイ交流の歴史について認識を深め、将来の研究や文化交流の課題を双方向的に検討する国際シンポジウムを開催する。タイからは仏教教育と研究、実践と開発事業に関わる僧侶および在俗の研究者、活動家を招聘し、日本のタイ仏教を中心とする研究者、実践者と意見交換するとともに、両国の多面的な仏教と社会の諸相について相互理解を深める。

プログラム

9月17日(日) 仏教をめぐる日本とタイ	
8:30 ~ 9:00	受付
9:00 ~ 9:20	開会
9:20 ~ 11:45	【第一部 講演】
11:45 ~ 12:45	休憩
12:45 ~ 15:15	【第二部 講演】
15:15 ~ 17:00	【第三部 討論】
17:00	閉会

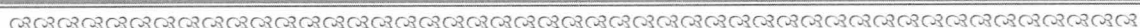
アクセス



申込方法

- **メール** rcwbc-uketsuke@ad.ryukoku.ac.jp
「シンポジウム申込」のタイトルで、お名前と申込人数、電話番号を記入し申してください。
- **ファックス** 075-708-5611 記入の上、送信してください。

2017年9月17日 仏教をめぐる日本とタイ～修好130年の国と人の交流に未来を探る～		
フリガナ		人数
お名前		人
電話番号		



発表者プロフィール

● 発表1 「南方熊楠が見た聖なる表象—聖地那智山での体験とともに—」



唐澤太輔 (龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員)

1978年生まれ。早稲田大学大学院社会科学部研究科修了(博士〔学術〕)。早稲田大学社会科学部助手・助教を経て現職。専門は哲学・倫理学、南方熊楠研究。現在は、南方熊楠の思想と華嚴思想との接点を中心に研究を行なっている。著書に『南方熊楠—日本人の可能性の極限—』(中公新書2015年)など。

KARASAWA, Taisuke

● 発表2 「「越後の親鸞」をめぐる表象の形成と確立過程—『御伝鈔』から近代へ—」

大澤絢子 (龍谷大学世界仏教文化研究センターリサーチ・アシスタント)

東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻博士課程修了。博士(学術)。真宗大谷派親鸞仏教センター嘱託研究員を経て現職。専門は宗教社会学。親鸞の語られ方とその変遷を研究テーマとする。監修に『親鸞文学全集大正編 第1巻 石丸梧平「人間親鸞」』(同朋舎新社2017年)ほか。



ŌSAWA, Ayako

● 発表3 「参詣曼荼羅の時空間—立山曼荼羅における地獄表現の諸相—」



亀山隆彦 (龍谷大学世界仏教文化研究センターリサーチ・アシスタント)

1979年生まれ。龍谷大学大学院文学研究科仏教学専攻博士課程修了(博士〔文学〕)。米国仏教大学院博士研究員を経て、現職。専門は密教学、日本宗教学。研究テーマは、日本における密教思想の展開。主な論文に「『駄都秘決鈔』の五蔵曼荼羅理解」(『佛教学研究』第71号2015年)など。

KAMEYAMA, Takahiko

● 発表4 「仏教説話にみる海の表象—もう一つの聖地像—」

李曼寧 (龍谷大学世界仏教文化研究センターリサーチ・アシスタント)

1978年生まれ。大谷大学大学院文学研究科仏教文化専攻博士後期課程修了。博士(文学)。大谷大学真宗総合研究所嘱託研究員を経て現職。専門は仏教文学。特に日中の仏教説話集及び僧伝・往生伝類に注目し、書誌学の視点からの比較研究を通じて、作品原形及び当時の仏教事情の還元を目指している。主な論文に「『発心集』構成研究」(学位論文2015年)など。



Li, Manning

● 発表5 「聖なる表象としての災害モニュメントと仏教者の役割」



金澤豊 (龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員)

1980年生まれ。龍谷大学大学院文学研究科仏教学専攻修了。博士(文学)。浄土真宗本願寺派総合研究所研究員を経て現職。専門はインド仏教、宗教者によるケア。龍樹をはじめとする中観思想研究、自然災害や平和問題における宗教的課題に取り組む。「震災復興支援活動～宗教者としての学びと気づき～」(『大法輪』2015年)など。

KANAZAWA, Yutaka



龍谷大学世界仏教文化研究センター 国際シンポジウム

チベットの宗教文化と梵文写本研究

The Research on the Religious Cultures and Sanskrit Manuscripts in Tibet



日時 2017年12月2日(土)
9:30~16:30

会場 龍谷大学 大宮学舎
西學253教室

申し込み不要 参加費無料 一般来聴歓迎

使用言語 日本語、中国語

お問い合わせ 龍谷大学世界仏教文化研究センター
電話番号 075-343-3812

プログラム

午前の部 チベットの宗教文化 9:30~12:15

開会・趣旨説明：能仁正顕（龍谷大学教授・世界仏教文化研究センター長）

挨拶：入澤崇（龍谷大学学長）

発表：

- 岡本健資（龍谷大学准教授）：多田等観講来「釈迦牟尼世尊絵伝」に描かれる「ムクターラターの物語」
- 岩尾一史（龍谷大学准教授）：古代チベット支配下の敦煌とチベットの仏教
- 万徳カ爾（フンデカル）（中国蔵学研究中心・社会経済研究所副研究員）：チベット族の牧民地区にある“bsang”祭り儀式について
- 孟秋麗（中国蔵学研究中心・歴史研究所副研究員）：清代における雍和宮の金瓶抽籤について
- 馮智（中国蔵学研究中心・歴史研究所副研究員）：五世パンチェンラマ伝の翻訳とその資料価値について

質疑応答・ディスカッション：武内紹人（神戸市外国語大学名誉教授）

午後の部 梵文写本と仏教思想 13:20~16:30

- 鄭堆（ダムドル）（中国蔵学研究中心・センター長）：『宝雲經』について
- 高穎（中国蔵学研究中心・宗教研究所助理研究員）：『菩提道次第廣論』における菩提心観について
- 間中充（龍谷大学大学院研究生）：『大乘莊嚴經論』ゴル寺旧蔵貝葉について
- 李学竹（中国蔵学研究中心・研究員）：CTRCに所蔵のCatuhstotravivaranaとその他の梵文写本について
- スダン・シャキヤ（種智院大学准教授）：ネパール現存のデーヴァナーガリー文字音写のチベット語写本についての一考察
- 加納和雄（駒澤大学講師）：梵文で伝存するアバヤーカラグプタの著作

質疑応答・ディスカッション：桂紹隆（龍谷大学研究フェロー・広島大学名誉教授）

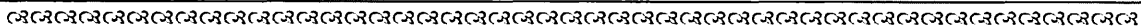
閉会の挨拶：若原雄昭（龍谷大学教授）

主催 龍谷大学世界仏教文化研究センター
仏教文化研究所 常設研究「仏教写本の総合的研究」班
共同研究「日本におけるチベット仏教文化の研究」班

共催 中国蔵学研究中心、龍谷学会

協力 龍谷大学アジア仏教文化研究センター





開催趣旨

龍谷大学と中国蔵学研究中心は、2011年に学術交流の促進に関する協定を結び、チベットおよび仏教の研究に関して相互の交流を重ね、今回が第三回目になります。

チベットに伝わる梵文写本の研究は現在どのような状況にあるのでしょうか。また歴史や宗教・文化の研究はどうでしょうか。2016年には、龍谷大学が研究に協力してきた『五百頌般若経』梵文写本の校訂テキストが、中国蔵学研究中心とオーストリア科学アカデミーにより出版されました。これを機会に、日本と中国のチベット学の現状を総合的に把握し、研究者の意見交換を通して、今後の国際的な研究のあり方について検討します。

Ryukoku University and the China Tibetology Research Center concluded the agreement on the promotion of academic exchange on 2011, and have interchanged diverse ideas concerning both Tibetan and Buddhist Studies. This event will be the third occasion for both institutions to have such interaction.

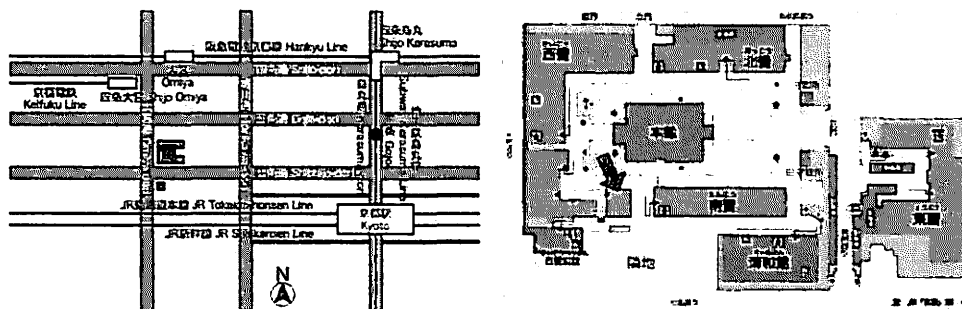
What kind of situation is the research on the Sanskrit manuscripts inherited in Tibet currently in? How are the studies of Tibetan history, religion, and culture? The China Tibetology Research Center and Austrian Academy of Sciences published the revised text of the Sanskrit manuscript of the *Pañcaśatikā Prajñāpāramitā* on 2016. Ryukoku University also has contributed to this research project. We hope to take this opportunity to comprehend the current situation of Tibetan Studies in both Japan and China, actively exchange ideas, and examine how the international research projects will be in the future.

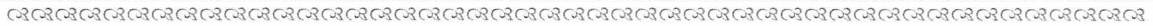
アクセス

JR東海道本線・近鉄京都線「京都」駅下車、北西へ徒歩約10分（市バス約3分）

京阪本線「七条」駅下車、西へ徒歩約20分

阪急京都本線「大宮」駅下車、南へ徒歩約20分（市バス約5分）





Research Center for World Buddhist Cultures, Ryukoku University
龍谷大学世界仏教文化研究センター公開研究会



人類知のポリリズム

華嚴思想の可能性

2018年2月11日(日)
龍谷大学 大宮学舎 清和館 3階ホール

13:00 ~ 18:00 (開場 12:15)

- 要予約 (webまたは電話) 先着 150 名様
- お問い合わせ 無料
龍谷大学世界仏教文化研究センター
075-343-3812 (平日 10:00 ~ 17:00)
web サイト: <http://rewbc.ryukoku.ac.jp/>

講演者



◎ 中沢 新一
NAKAZAWA, Shinichi

明治大学
野生の科学研究所所長
思想家・人類学者

講演者



◎ 河合 俊雄
KAWAI, Toshio

京大大学
こころの未来研究センター
教授、副センター長
臨床心理学者

研究発表者



◎ 唐澤 太輔
KARASAWA, Taisuke

龍谷大学
世界仏教文化研究センター
博士研究員
倫理学、南方熊楠研究



◎ 野呂 靖
NORO, Sei

龍谷大学
文学部准教授
日本仏教、華嚴学



◎ 亀山 隆彦
KAMEYAMA, Takahiko

龍谷大学
世界仏教文化研究センター
リサーチ・アシスタント
仏教学、密教学

プログラム

- 13:00 ~ 13:10 挨拶: 能仁 正顕
(龍谷大学世界仏教文化研究センター長)
- <第一部>
- 13:10 ~ 13:40 発表 ①: 唐澤 太輔
「南方熊楠の生命観と華嚴思想」
- 13:45 ~ 14:15 発表 ②: 野呂 靖
「明恵の〈夢〉と華嚴思想」
- 14:20 ~ 14:50 発表 ③: 亀山 隆彦
「マンダラと法界: 東アジア密教における華嚴思想の意義」
- <第二部>
- 15:00 ~ 15:50 講演 ①: 河合 俊雄
「ユング派心理療法と華嚴経」
- 16:00 ~ 16:50 講演 ②: 中沢 新一
「レンマ学としての華嚴」
- <第三部>
- 17:00 ~ 17:50 ディスカッション
(中沢新一×河合俊雄×唐澤太輔×野呂靖×亀山隆彦)
- 17:50 ~ 18:00 謝辞
総合司会: 金澤 豊
(龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員)

- 主催: 龍谷大学世界仏教文化研究センター
- 共催: 明治大学野生の科学研究所, 京都大学こころの未来研究センター, 龍谷学会
- 協力: 龍谷大学仏教文化研究所(「仏教と聖地に関する総合的研究—聖なる表象とは何か—」研究代表: 楠淳哉), 龍谷大学アジア仏教文化研究センター



人類知のポリリズム

コーディネーターより

華嚴思想は、大きな可能性を秘めています。
現代において、それは、仏教の枠を超え、現代哲学、深層心理学、量子力学、アートなど、さまざまな視座から捉え直されようとしています。

華嚴思想の「在り方」は、重々無尽に異なる複数の拍子が重なり合うポリリズム（複音）のようです。私たちはまるで心地よいリズムに導かれるように、この華嚴思想の研究を開始しました。そして現在、仏教学のみならず、人類学、哲学、心理学的視点を盛り込んだ多角的・複合的な研究を行っています。

華嚴思想には、人類の営為における重要な通奏低音が隠されているのではないのでしょうか。その重々無尽の知は、分析・分裂・孤立が目立つこの現代社会における大きな指針となり得るのではないのでしょうか。自然破壊や人間同士の関係の断絶が目立つ今、動的かつ柔軟な、すなわち華嚴的な「つながり」を見直すことは急務だと思われます。

今回は、思想家・人類学者の中沢新一氏（明治大学野生の科学研究所所長）と臨床心理学者の河合俊雄氏（京都大学こころの未来研究センター教授）をお招きし、若手研究者を交えた公開研究会を開催いたします。

＜第一部＞では、龍谷大学所属の若手研究者3名による研究発表を行います。まず、知の巨人と言われた南方熊楠の生命観と華嚴思想とのかかわりについて、唐澤太輔が発表します。次に、明恵による夢記に見られる華嚴思想の影響と意味について、野呂晴氏が発表を行います。最後に、東アジアの密教と華嚴思想の結びつきについて、亀山隆彦氏が発表します。

＜第二部＞では、まず、河合俊雄氏から、現在の臨床心理学、特にユング派心理療法と華嚴思想のつながりについてご講演いただきます。次に、中沢新一氏から、華嚴思想をベースとした「レンマ学」とはいかなる学かについてご講演いただきます。

＜第三部＞では、発表者によって「華嚴研究のこれから」と題したディスカッションが行われます。

本研究会を通して、ご来場のみならず、華嚴思想から現代を捉え直す根本的な意義などについて考えていくことができれば幸いです。

唐澤 太輔（龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員）

交通アクセス

- JR東海道本線・近鉄京都線「京都」駅下車、北西へ徒歩約10分（市バス約3分）
- 京阪本線「七条」駅下車、西へ徒歩約20分
- 阪急京都本線「大宮」駅下車、南へ徒歩約20分（市バス約5分）

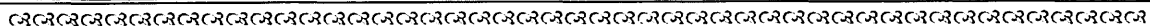
申し込み方法

- ◎ お申し込みは、世界仏教文化研究センターホームページ <http://rcwbc.nyukoku.ac.jp/> にある「お申し込みフォーム」に、① 氏名（フリガナ）、② 参加人数、③ Eメールアドレス、④ 電話番号を入力の上、送信してください。送信ができた時点で予約完了です。定員になり次第、締め切ります。
- ◎ お電話でのお申し込みは、075-343-3812（龍谷大学世界仏教文化研究センター）まで。（平日 10～17 時、土日祝は休み）
- ◎ ご不明な点やキャンセルは、世界仏教文化研究センターまでお電話でお問い合わせください。

〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1 龍谷大学 大宮学舎 白亜館 3F
龍谷大学世界仏教文化研究センター

※お申込みいただいた個人情報は、本会の運営以外の目的には使用いたしません。

華嚴思想の可能性

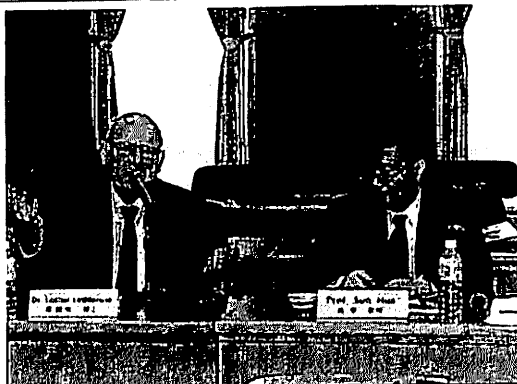


『仏教タイムス』2017年10月19日 p.2

龍谷大学 「沼田書籍賞」記念講演会 中国の刻経、石窟を語る

龍谷大学世界仏教文化研究センターと龍谷大学仏教文化研究所は9日、京都市下京区の同大大宮学舎で沼田智秀仏教書籍優秀賞の受賞者による記念講演会を開催した。2015年に同賞を受賞したドイツ・ハイデルベルク大学のローター・レダローゼ教授と北京大学考古学院の孫華教授が中国での刻経、石窟仏像の研究について話した。

同賞は、毎年米岡で審査され、英語で執筆された仏教学術書籍の中から選定されるもので、2009年に龍谷大学通協会が創設。受賞者には賞金が贈呈される他、受賞式



2015年の受賞者であるレダローゼ教授と孫華教授による講演会

とシンポジウムがカリフォルニア大学バークレー校で、記念講演が龍谷大学で開催されている。

レダローゼ教授は、山東省、四川省を中心とした刻経研究において日本人研究者の功績を紹介し、「この分野では日本の先行研究によるものが大きい」と説明。日本人研究者の特徴に①テキスト翻訳での研究の正確さ②僧侶などの宗教的内部者であることがあり、宗教的な意図を理解している

③宗教的内部者であっても客観的な研究を行っている点を挙げ、教授の研究チームが発見、検証している刻経の解読に日本の研究が役立っていることを報告した。

同賞を受賞した『中国佛教石經―四川省』は全5巻を予定しており、2021年に最終巻を出版する見通しであることも報告。授賞により我々の研究がより世界で知られるようになった」と感謝し、レダローゼ教授が受賞書籍の続巻である『中国佛教石經―四川省』第3巻を龍谷大学に寄贈するサプライズもあった。

孫華教授は、現在取り組んでいる四川省老山寺の石窟仏像に関する研究を解説。同寺の石窟仏像の作制年代には諸説あるものの、統一感のある仏像群の存在と他の遺跡との関連性から南宋中後期の時代と推定した。さらに中国全体では途絶えていく密教が同寺の「密教柳趙教団」に見られるなどの特徴を述べ、当時の密教信仰の可能性についても話した。

『中外日報』2018年2月11日 p.4

2018年(平成30年)2月16日

華嚴思想について話す中沢氏(中央)



龍谷大で華嚴思想シンポ

直観に基づくレンマ重視

中沢新一氏 日本の精神文化に不可欠

龍谷大世界仏教文化研究センター主催の公開研究会「人類知のポリリズム」華嚴思想の可能性」が11日、京都市下京区の同大宮学舎で開かれた。思想家の中沢新一氏が「レンマ学としての華嚴」と題して講演し、華嚴思想の心理学との関係や現代社会での可能性を

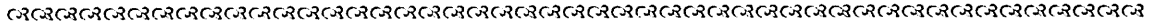
「人間の脳が持つロゴスの機能は人工知能で完全に再現できるが、人間理解のためにレンマの研究が必要」と指摘。キリシヤで発達したロゴスに対し、レンマは仏教の中で発展し、華嚴や般若思想に表れたと位置付けた。東洋無常を説く華嚴思想の縁起思想に着目し、

「全ての事象は関係性で成り立っており、個は全体を無視して存在できない」とした。そして華嚴は密教の基盤理論になっただよ日本に精神文化を知る上でも不可欠だと語った。

心理学者の河合俊雄氏は日本のユング思想・心理療法の導入で華嚴思想

が果たした役割を紹介。父の中雄氏(1928-2007)が中沢氏を招いて華嚴研究会をつくった経緯に触れ、両者の類似性を指摘。「前提は全く異なるものの、迷妄と悟りは分離できないとする華嚴思想と、密理と治癒の関連性を探る心理療法の似ている。ユングの想定以上に華嚴は日本のユング心理学と関わっている」と分析した。

同大の華嚴研究者を交えた討論も行われた。(武田智彦)



『中外日報』2018年2月11日 p.11

龍谷大で研究会

明恵上人の夢記

11日に龍谷大大宮学舎（京都市下京区）で開かれた華嚴思想に関する公開研究会で、野呂靖・同大准教授は日本華嚴宗の中興の祖といわれる明恵上人（1173～1232）の「夢記」について、夢を通して華嚴の教義と歴史を体験・実践しようとしていたのではな

いかと語った。

明恵には「夢記」と題するもの他、手紙、著作、聞き書きなど約470点、19歳から58歳までの夢の記録が確認されて

いる。内容は天界に行ったり、過去の高僧と会ったりするものや「華嚴が池の岸に立って池を見ている」と概念を擬人化したものまである。

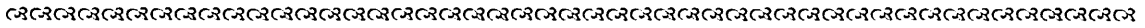
野呂氏は「仏の現実性をどのように実感するか」という明恵の問題意識や「善財童子が訪ねた53人の善知識や華嚴宗の祖師に実際に会う」という願文の記述態度から、華嚴経の内容や華嚴宗の歴史を追体験することが夢を見て記録する目的だと分析した。夢を見る方法を訓練していた様子もあるという。

また人間の通常の認識

を激しく疑う仏教の伝統から「むしろ夢の方が欲望の作用が弱く、正しい認識に近づける」との考え方があった」とも述べ、さらに受戒滅罪の儀礼と運動していたとの見方も示した。

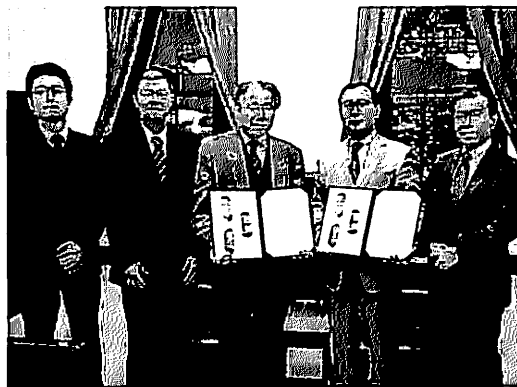
一方、心理学者の河合

俊雄氏は「日本人は西洋人や現代中国人に比べても夢の象徴性が弱い。しかし明恵の夢は日本人にしては珍しく象徴性が強く、戒律を非常に厳しく守っていたからではないか」と語った。



『文化時報』2018年1月31日 p.1

センター学術交流で包括協定 文献研究の成果など共有 共同シンポジウム



龍谷大・名古屋大

仏教の総合的学術研究「研究センター（能仁正願
や「人間・科学・宗教」センター長と、アーカ
領域の融合、仏教研究の イウス、物質文化、視覚
国際的プラットフォーム 文化の3研究部門で、寺
の形成などを旨指してい 院資料のアーカイウス化
る龍谷大学世界仏教文化 など、テキスト研究を統

けている名古屋大学人文
学研究所附属人類文化遺
産テキスト学研究セン
ター（阿部泰郎センター
長）は26日、学術交流に
関する包括協定を龍谷大
学大宮キャンパスで締結した。
両センターが保有する
資料や、研究者の文献研
究で得られた知見などを
共有することで、仏教古
典籍の総合的研究の促進
を目指す。5月にも共同
でシンポジウムを開催予
定という。

能仁センター長は、「
我々には、可能な限り
仏教の遺産を発掘し伝え
ていく使命がある。いろ
んなネットワークを構築
し、人材を養成しながら
研究を進めたい」と提携
の意欲を語る。阿部セン
ター長は「私学と国立大
学の枠を超えて、若手が
チャレンジできるフラッ
トフォームを作りたい」
と話していた。

※ 本冊子は龍谷大学仏典翻訳研究会の資金援助をうけた成果物である。

龍谷大学世界仏教文化研究センター

2017 年度研究活動報告書

2018 年 3 月 31 日発行

編 集 龍谷大学世界仏教文化研究センター（唐澤太輔、亀山隆彦、李曼寧、金澤豊、大澤絢子）

発行者 龍谷大学世界仏教文化研究センター（代表 センター長 能仁正顕）

〒600-8262 京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1 白亜館 3F

電話: 075-343-3812 E-mail: cswbc@ad.ryukoku.ac.jp

URL: <http://rcwbc.ryukoku.ac.jp/>

龍谷大学仏教文化研究所（代表 所長 能仁正顕）

〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町 125 番地の 1

Tel 075-343-3311（代表） Fax 075-343-4022

E-mail: bukken@ad.ryukoku.ac.jp

印刷所 株式会社 河北印刷



龍谷大学

RYUKOKU UNIVERSITY